

## CONTENTS

|                               |     |
|-------------------------------|-----|
| ● 第19回NAMMビジネスツアー 報告          | 1~4 |
| ● MIDI規格委員会 MIDI規格IEC国際標準化報告  | 5   |
| ● MIDI検定試験実施結果報告              | 6   |
| ● 著作権・ソフト委員会報告                | 7   |
| ● AMEI会員名簿・第5回通常総会と懇親会開催のお知らせ | 8   |

# 第19回NAMMビジネスツアー AMEI/MMA会議報告



今年のNAMM SHOWは、2016年1月21日～1月24日の期間で、例年同様アナハイム・コンベンションセンターにて開催されました。NAMMの発表では、今回の入場登録者数は、101,736人と、今年もまた前年(99,342人)を上回り、総出展者数も1,726社(新規出展409社)と去年の1621社(新規出展331社)を上回り、ここ数年の回復基調に一段と弾みがついたショーとなりました。今年も初日朝から噴水周辺は入場を待つ多くの人で溢れ、入口広場では学生のブラスバンドがパワフルなオープニングセレモニーで出迎えてくれました。中央の入口から会場に入ると最初にユーロラック/モジュラーシンセが1階入口周辺に並び、昨年のアナログシンセの復活から更に進んだ(戻った?)印象を受けましたが、電子楽器関連各社のブースではアナログシンセ復活の先へ、更なる進化を遂げた新製品達を時間を忘れて楽しませてもらいました。MIDI規格委員会主催の第19回NAMMビジネスツアーも今年は7名の参加を得て、NAMMショー及びMMA総会の日程に合わせ、1月20日出発～1月26日帰国のスケジュールにて実施することができました。



# NAMMビジネスツアー

今年のNAMMビジネスツアーは、7名の参加メンバーを得て例年同様、NAMMショーの一日前にロサンゼルスに着き、空港からチャーターバスでロサンゼルス市内の観光と買い物、夕方アナハイムへ到着するという予定をたてていましたが、今年も皆さん多忙なスケジュールで、ロサンゼルス空港から直接会場へ向かわれる方や、市内観光の途中から現地集合の指示で急遽会場へ向かわれる方等、去年同様自由度の高いツアーとなりました。今回は成田での集合写真を撮り忘れたので(すみません)、市内観光の途中で、チャーターしたミニバンをバックにパチリ。

今回の観光、最初はロサンゼルス ダウンタウンにある1901年に作られた世界一短いケーブルカー：Angels Flight Railway周辺を散策。そこから少し歩いたところに、更に古い1893年に建てられたビルを見学。このビルは今もテナントの入っているオフィスビルですが、アメリカ合衆国国家歴史登録財にも指定されていて、映画「ブレードランナー」の舞台として知られています。中に入ると壁や鉄の手すり、エレベーターに精巧な装飾が施されていて、その独特な雰囲気を感じました。

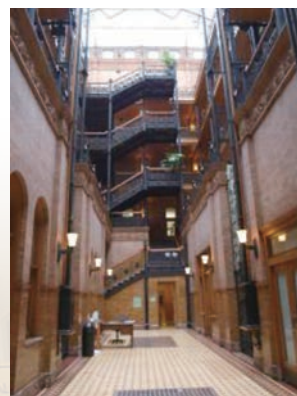
その後はダウンタウンの中にあるグランドセントラルマーケットで昼食をとり、定番のコースとなったギターセンター、ドルビー・シアター、チャイニーズシアターをめぐり、7時半過ぎにアナハイムのホテルへ到着しました。



ロサンゼルス市内にて 2016NAMM ツアー記念撮影



チャイニーズシアターもスターウォーズ上映中



1982年に公開された「ブレードランナー」の舞台になったブラッドレービル



エンジェルフライト鉄道

## AMEI NAMM ツアーに参加して

AMEIツアーに参加させていただいたことで、初めてのLA & NAMM SHOWを満喫させていただくことができました。

初日はハリウッドのギターセンターやドルビーシアターなどを巡っていただきました。ギターセンターには多数のエレキ・アコースティックギターだけではなく、鍵盤からドラムまで沢山の品揃えがありました。日本のように沢山のPOPで派手に飾られてはならず、整然と製品が並んでおり、思いのほかビンテージ品の数がとても多かったです。“色々揃えてあるから好きなものを選びなよ”といったそれぞれのブランドを尊重した店作りのように感じました。自分たちの製品もその中で尊重された価値を保ちながらも目を引く商品にする必要があるなあと引き締まる思いでした。その後はザ・ハリウッドといった雰囲気のドルビーシアター周辺を観光させていただき、とても楽しい時間を過ごさせていただきました。

二日目からはいよいよNAMM SHOWの開幕です。私は家電メーカー出身なのですが、ここまで派手にぎやかな展示会は初めてでした。展示会というよりもフェスティバルといったほうが近いかもしれません。まずは自社ブースにいたのですが、自分が設計担当したモデルを非常に高いレベルの演奏者が必死に紹介してくれておりその演奏に感動しました。こういったことも楽器メーカーでしかできない経験です。

他を巡ってみて驚いたのが、同業他社の多さでした。特にシンバル専門メーカーの多さには驚きました。ギターやシンセサイザーの様に複数の部品や回路が必要なものは特色を出しやすいと思いますが、材料と大きさで形が大体決まってしまうようなシンバルを専門にしているメーカーがいくつもあり沢山の種類の製品を展示して

いました。家電業界も同業他社は多かったものの、1材料で作られている製品でここまで、音楽への強いこだわりを感じられました。逆に言えば、そこまで大きくない市場にこれだけ多くの企業がしのぎを削っていることに恐ろしさを感じました。この中で斬新な価値をいかに必要なタイミングで提供できるか、楽器メーカーの設計者として精一杯頑張らねばとすることができました。

これだけ規模の大きいイベントでしかも初めての北米ということでしたが、今回AMEIツアーに参加させていただくことで非常にスムーズに過ごすことができました。道中では他社様と同様の業務を行っている方と意見交換もすることができ非常に充実した日々を過ごすことができました。関係者の皆様ありがとうございました。



株式会社コルグ 水藤 直人



# AMEI/MMA ミーティング報告

MIDI規格委員会委員長 飛河 和生

本年度も1月20日から1月26日にかけて米国アナハイムで開催のNAMMツアーを行い、同時にAMEIとMMAとの現地会合を開催しました。

今回のツアー参加者は7名と、例年に比べて人数が少なかったのですが、初日の現地市場視察は機動的に動くことができて、参加された皆さんも行動しやすかったのではないかと思います。

到着日の市内見学では、最初にロスのダウンタウンに向かい、ケーブルカーやブラッドベリービルを訪問しました。

このビルは映画ブレードランナーで、主人公のデッカー（ハリソン・フォード）がレプリカントのプリズとの戦闘シーンの撮影場所です。

その後、グランドセントラルマーケットで昼食を取った後、毎年恒例のギターセンター、チャイニーズシアターの見学を行いました。

初日の夜はツアー成功を祈って、ホテルの近くで夕食会を行いました。

翌日の21日よりNAMMが開催され、夕方よりYamahaさんのNAMM boothの一室にて打合せを行いました。その後に開催されたRoli社の製品説明会にも参加するスケジュールであったため、この会合は長谷川会長も参加され、MMAの新たな仕組みであるTMA (The MIDI Association) に関する説明や、新たに提案されたMPE (Multidimensional Polyphonic Expression) に関する打合せとなりました。

同提案はRoli社を中心に同技術に関係する会社より昨年MMAに提案されたもので、今後はWGが設置され、MMA/AMEIにて審議を行うこととなっています。その後、MMAのTom White会長、Executive BoardメンバーのAthan Billias氏、Technical Standards BoardチェアマンのMike Kent氏、AMEIの長谷川会長、事務局の水野氏とMIDI規格委員長（飛河）の6名で全体意見交換を行いました。そこでTMAとしての活動が紹介され現在、MMAのwebサイトはTMAの名称で展

開され、よりユーザフレンドリーなページとなっています。情報交換やTMA (The MIDI Association) の設立背景について意見交換が行われました。

MMAはそのまま存続しますが、対外的なフロントとしてはTMAが立つことになります。Tom White氏を中心とするMMAは、今後はCA/RP等の規格の決定などの業務に集中する方向となっています。

22日はヤマハさんにご用意いただいた、マリオットホテルのミーティングルームにて全体の意見交換や打合せ、そしてその晩は、滞在先のパラダイスピアホテルにて翌日のJoint AMEI/MMA Management Meetingと日曜のAGMの事前確認事前会合を行いました。

1月23日(土)には、7:30-10:00 "Joint AMEI/MMA Management Meeting" Grand Ballroom G & H" at the MarriottにてHD Protocol、BTLE ステータス確認、前述のMPE、USB MIDI 1.1やIEC 関連、電子楽譜のIECにおけるテクニカルレポート報告、シンセのコントローラ体系をメッセージ群として新たにまとめようとする新規提案のMIDI-SSC (Subtractive Synthesizer Control)、高速化対応が可能なMIDI機器間でのMIDI高速転送を目指すManaging High Speed Bandwidth提案が行われました。

WebMIDI API状況報告は時間切れとなりましたが、毎月のレポートがあるため、今回は意見交換は行いませんでした。

AMEIからは、これから多くの分野の企業や個人開発者がよりMIDIを利用しやすくするためのオープンな開発環境を目指したフレームワーク的な提案が行われました。

1月24日(日)はMMAの総会が行われ、AMEIもオブザーバとして参加し、最後のセッションでは柿下技術研究部会長により、オープンな開発環境を目指したフレームワークの提案が行われ、Think MIDIで行われた複数の規格をインターフェイスするデモが行われました。



AMEI/MMA Dinner Meeting



Joint MMA/AMEI Meeting



MMA総会



柿下技術研究部会長によるプレゼン



# NAMMビジネスツアー

## 初めてづくしの海外出張と AMEI ツアー

まずはじめに、今回AMEIツアーでお世話になった皆様、本当に有難うございました。

細やかなサポートとそこから生まれる安心感が、私の1週間のアメリカ生活を精神的に支えていました。このツアーに参加して本当に良かったと心から思います。入社してもうすぐ丸2年。ようやく新人からの卒業かと思われた時期にNAMMショー視察の話を頂きました。念願の海外出張、しかもアメリカとあって、思い浮かぶのはニューヨークの高いビル群にファーストフード。仕事ではなく旅行者目線でアメリカ出張のイメージが膨らむのは私だけでしょうか。そんな私より、AMEIツアーさんを通して得たことを2点紹介させていただきます。

### 1. 海外出張は雑務だらけ

海外出張話で心躍る時期も過ぎ、日が近づくにあたって目の前に立ちちはだかるのは言葉の壁だけでなく、よく分からない事務手続きや経費処理だと気づいてきた頃。私は同じNAMMショー視察予定の上司が別行動であることを知ります。右も左も分からない海外出張、本当に行って帰ってこられるのかと不安になりましたが、皆様ご存じのようにAMEIツアーさんが航空券からホテル、入場バッジまで手配してくださるおかげで、NAMMショー視察に集中することができました。NAMM内で行う業務において国内での事前準備が多かった関係で、ここに航空券手配等が更に加わっていたらパンクしていただろうなと思います。海外出張は楽しいだけではない、行って帰ってくるのも一苦労だと痛感しました。

### 2. 社外の人との出会い

NAMMショー視察等も嬉しい出来事でしたが、何よりもAMEIツアーを通して社外の方との交流機会を頂けたのはとても嬉しかったです。普段は浜松、特に研究部門は通称豊岡村と呼ばれる場所で、社内の人からも車で30分程隔離されたところで仕事を

ヤマハ株式会社 研究開発統括部 関根 鈴花

しています。そのため、社内の人との交流もないのに、社外とは言わずもがな。そんな生活の中で、AMEIツアーを通して同業他社の皆様と色々と語り合えたのは非常に幸運でした。同じような業務の悩みを抱えていたり、会社の苦労があったり…もっとお話ししたいという物足りなさを抱えながら、いつか国内で飲みましょうとお別れたのは、とても良い思い出です。ぜひ、これからもAMEIツアーが素敵な出会いの場であると良いなと思います。

最後に、今年のNAMMショーはまた一段と入場者が増え、活気あふれていました。製品としては電子ピアノの展示が増えている印象を受けました。

また、昨年地下出展だったメーカーが大展示場に進出していたりと、音楽業界自体もまた盛り上がってきている予兆を感じました。

ぜひ、来年も伺えたらいいなと夢見つつ、その際はAMEIツアーさんにまたお願いしようと思います。本当に有難うございました。



疲れた脚に座れるブースは快適でした

## AMEI NAMM ツアーに参加して

入社後10年目の節目で部門異動となり、新人(?)教育の一環としてNAMM Showの視察へと赴く機会を与えられ、同時に紹介されたAMEI NAMMビジネスツアーに参加させていただくこととなりました。万全のサポート体制に加え、前日入りという負荷の少ないスケジュールであり、またその初日には地場の楽器店や現地の人々が多く集まる場所を巡っていただき、余裕を持ちながらもしっかりと、NAMM Show視察へのモチベーションを高めていくことができました。

視察の間、随所で思い知らされたのが、アメリカ(人)のスケールの大きさでした。「アメリカはスケールが大きい」などという表現は昔から言い古されていることですが、私も知っている「つもり」でした。その1つとして、敢えてNAMM Show会場以外の例を挙げるならば、会場を離れて訪れたホームセンター(写真)での出来事が思い出されます。店内の陳列風景はもちろん、そこでの購買客の行動にも圧倒されました。巨大な車で乗り付け、ショッ



ヤマハ株式会社 研究開発統括部 佐々木 優

ピングカートに建具(おそらく玄関ドア)を複数積み、当たり前のようにレジを通り、巨大な車に積み込み、去っていく。このように文字にしてみると、「まあDIYが盛んな国だし、アメリカだし、そんな光景もありえなくはないよね」という感想しか得られないとは思いますが(私もそうでした)が、実際に目の当たりにしたとき、口を衝いて出た言葉は「ありえない...」でした。

「百聞は一見に如かず、百見は一触に如かず」という言葉がありますが、この言葉の意味そのものから考え直させられるような、大きな経験でした。以前より、営業の方などからしばしば「こんな所(事務所)で机に寄り付いてアレコレ悩んでないで、さっさと現場に言って見聞きしてこい」という叱咤を受けることがありましたが、この言葉を口にした方々の想いに少しは触れることができたように思います。特に現在はエンドユーザーからかなり離れた位置での業務であるため、現場の情報を意識的に収集しにいく必要性を感じ直すことができました。こうした再認識が得られたことだけでも、今回のツアーでの大きな収穫であったと感じています。

ただ1つ残念であったのは、予定を詰め込みすぎたためにツアーに参加された他の方々との交流をほとんど持てなかったこと。同じ業界で働く方々といろいろと語るチャンスがあったのに、それを逃してしまったのはもったいなかったと感じています。もしまたツアーに参加できる機会があれば、予定にしっかり組み込んでおきたいと思います。

過去のツアーに参加されたほぼ全ての方のレポートに書かれているように、航空券やホテル、NAMM Show入場バッジなどの、「会場の中に入るまでの全て」が準備されているこのツアーのサポートは、非常にありがたいものでした。海外経験が少なく、語学力に大いに不安を抱えていた私でも、Showの視察のみに集中することができましたし、その集中がなければあの広大な会場で満足な量の情報を集めることなど不可能であったと思います。本当にありがとうございました。

## MIDI 規格国際標準化報告

MIDI 規格委員会 副委員長 河口 幸裕

## &lt; MIDI国際標準化の意義 &gt;

MIDI規格委員会とMIDI国際標準化ワーキンググループはMIDI規格の国際標準化活動を推進してきました。このたび、IEC(国際電気標準会議)による標準化プロセスがようやく最終局面に差し掛かりつつありますので、状況をご報告させていただきます。

まず、国際標準化の意義についてあらためて概説します。国際標準の重要性は、以下の2点を契機として世界的に高まったと言われています。

- 1) WTO(世界貿易機関)が、強制規格や政府調達基準の策定にあたっては国際標準を基本とするよう各国に義務付けたこと(1995年のWTO/TBT協定および1996年の政府調達協定)。
- 2) 世界経済における地位を向上させている中国がWTOに加盟したこと(2001年)。

個々の国による強制規格等は貿易障壁としても機能し得ることから、その基本となる国際標準をおさえる事が、グローバル市場における工業製品やサービスの主導権確保の上で重要となります。ここ数年でも、すでに市場で十分安定的なデファクト化を果たしているはずのUSB仕様やHTML5仕様などが新たに国際標準化を果たしてきていることから、国際標準の重要性の高まりがうかがえます。

工業分野においては、IECおよびISO(国際標準化機構)、ITU(国際電気通信連合)が国際標準を担う機関であり、MIDI国際標準化の舞台となっているIECは電気・電子工学とその関連分野を担当しています。

MIDI 1.0規格は誕生後30年を超え、なお音楽関連市場で広く活用されている安定した業界団体規格ですが、AMEIは国際標準を取り巻く先述の情勢の変化を受け、MMA(MIDI Manufacturers Association)との連携のもと、グローバル市場での成長基盤を一層安定したものとすべく、MIDI規格の国際標準化に向けたアクションを進めてきました。

## &lt; 活動の経緯 &gt;

AMEIによるMIDI国際標準化の活動は2010年頃から本格化しました。IEC内の専門委員会のひとつであるTC100(オーディオ・ビデオ・マルチメディアシステム及び機器の領域を担当)のカテゴリーで標準化を進める方針とし、まずTC100の国内グループ会合に定期的に参加することで、国際標準そのものへの理解を深めて行きました。また、ともにMIDI規格を支えてきたMMAとも様々なレベルでの議論を繰り返し、国際標準の重要性の理解を求めながら、徐々に足並みをひとつに揃えて行きました。それらの環境整備と並行して、翌2011年にはMMAがTC100のリエゾン団体として登録され、一方国内ではMIDI国際標準化が経済産業省の推進する国際標準開発事業の1テーマとして認可を受け、AMEIがそれを

受託するなど、活動が本格化して行きました(経産省事業は3ヵ年で期間満了済み)。

MIDI規格は、30数年前に誕生したMIDI 1.0プロトコルの仕様と、それを取り巻くGM(General MIDIの音源仕様)、SMF(Standard MIDI Fileのフォーマット仕様)等の膨大な拡張仕様群から成り、本来の電子楽器間通信にとどまらない広範なビジネス領域に応用の幅を広げて来ました。さらに、W3C(World Wide Web Consortium)に参画してのWeb MIDI API関連の活動や、本年1月に策定されたBLE-MIDI(MIDI over Bluetooth Low Energyのプロトコル仕様)の例のように、現在も盛んに拡張を続けています。

AMEI/MMAは、そうした膨大なMIDI関連規格のうち、その根幹を成すMIDI 1.0プロトコル仕様の部分を国際標準化する方針とし、共同で規格書ドラフトの作成を進め、2013年にMMAからの発議としてTC100に規格原案(NP - New work item Proposal)を提出しました。規格書ドラフトと言っても、仕様の中身は既存のMIDI 1.0プロトコル仕様そのものであり、IECの規定する文書ルールに則って書式や表現形式を整えていく作業が大半でした。

一方で、MIDIは関連業界の維持・発展の基盤であり、国際標準化するからと言って今後の主導権をIECのオープンな議論の場に完全に委ねてしまう事は、必ずしもメンバー企業の本意ではありません。そうした懸念を払拭する目的で、IECでの標準化プロセスの本格スタートに先立って、2014年にMMAとIEC本部との間で、MIDI 1.0プロトコル仕様の著作権と改変の権利を保持するための個別契約を締結し、その後無事にIECのプロセスが再開されました。

## &lt; 最新状況 &gt;

以上のように、各フェーズでの議論や作業に当初の目論見よりも大幅に時間を費やしてしまったものの、ようやく本年1月にIECの国際規格原案(CDV-Committee Draft for Vote)として「MIDI(MUSICAL INSTRUMENT DIGITAL INTERFACE) SPECIFICATION 1.0 (ABRIDGED EDITION, 2015)」文書の投票回付がスタートしており、各国の委員会によるMIDI国際標準化の賛否投票が行われます。なお今回、MIDI規格の十分な成熟度に鑑みて「NPとCDVの同時回付」という期間短縮型のプロセスが適用されており、3ヶ月の投票期間を経て無事にIECの承認が得られれば、2016年度内にもMIDI 1.0プロトコル規格がIEC国際標準として発行の運びとなります。今後順調に推移することを期待しています。

以上、ようやく最終局面に到達した本活動の最新状況をご報告申し上げるとともに、今回の活動にご理解と多大なご支援をいただいているAMEIメンバー企業各位に、この場をお借りして御礼申し上げます。



TC100国内委員会 TA10対応標準化G



MIDI規格の国際標準化投票に向けて日本サイドの意見調整



# MIDI 検定試験実施結果報告

主催：一般社団法人音楽電子事業協会  
協力：日本シンセサイザープログラマー協会

MIDI検定試験は28年度も例年通り1級、2級1次、2級2次ならびに3級試験が実施されました。受験者数に関しましては前号で既にご報告したとおりですが、前号時点で未定でした2級2次試験に関しましては91名が受験されています。また4級試験におきましては4級認定指導者のもと各地で開催され、多くの4級保持者を認定しています。

1999年に始まったMIDI検定は本年度で18回目を迎え、累計で約35,000名の受験者、20,000名を越える合格者を輩出しております。受験者数の推移としては2級試験が開始された2000年の4,044名をピークに減少をし続けておりましたが、平成25年度の総受験者726名を最後に、翌年は748名、本年度は762名と微増しており、若干の回復傾向が見えています。

これまでMIDI検定という専門学校のコンピューターミュージックコースを対象とした検定というイメージが強く一般の方に認知されることが少なかったのですが、昨年から開始した藤本健氏の「DTMステーション」というデジタル系情報サイトへの記事掲載を足がかりに、少しずつではありますが「MIDI検定」の認知が広まっている傾向にあります。実受験者の数字がV字回復するほどの状況ではありませんが、公式ガイドブックである「ミュージッククリエイターハンドブック」の増刷が今期に複数回あったことなどを考えると、確実に興味を持っていただいている人口が増えていることは確かです。また、ここ数年若い方の受験も目立つようになり、10

代、20代の若者がDAWによる楽曲制作をきっかけにMIDIの世界へ入ってきているという実感もございます。しかし、音楽専門学校等でDAWによるMIDIデータ制作の作法を学んでいない方も多く、実技試験を伴う2級以上の試験においては、初歩的な打ち込みのノウハウを知らずに不合格となるケースも目立っています。WEBの情報をもとにノウハウを習得する若者世代にとって有益な情報といえるMIDI関連の情報が少ないというのも事実で、MIDI検定でまとめられた音楽制作のノウハウを若い世代に届く手法で伝えていくということも急務では無いかと考えております。「打ち込み」と呼ばれるMIDIを使用した音楽制作は、MIDI規格とともに世界に通用する音楽制作の手法ですので、約20年をかけてまとめ上げてきた「MIDI検定」のノウハウをしっかりと若い世代にも継承し、表現力の高いMIDIの活用を促していければと思います。

40代、50代に比べると若者は人口比率的に半分程度しかいないわけですから、ピーク時の半分である2,000名を目標にさらなるプロモーションができればと考えております。



## 全国協力校・協力団体 試験会場

MIDI 検定 3 級及び 2 級 1 次試験の実施につきましては、下記の学校、団体に会場提供等のご協力を頂きました。

### 【北海道・東北エリア】

- ・クリプトン・フューチャー・メディア
- ・札幌琴似工業高等学校
- ・学校法人 日本コンピュータ学園東北電子専門学校
- ・あとり技芸向上支援協会

### 【関東エリア】

- ・日本工学院専門学校
- ・横浜デジタルアーツ専門学校
- ・国立音楽院
- ・ヤマハミュージックジャパン
- ・トート音楽院渋谷
- ・日本工学院八王子専門学校
- ・音楽学校 メーザー・ハウス

### 【中部・近畿エリア】

- ・学校法人大阪創都学園 キャットミュージックカレッジ専門学校
- ・コンピューターミュージッククラブ Dee
- ・トート音楽院梅田
- ・専門学校 ESP エンタテインメント
- ・専門学校静岡電子情報カレッジ
- ・リュウケイ ミュージック ネット
- ・専門学校 名古屋ビジュアルアーツ
- ・名古屋文理大学
- ・金沢科学技術専門学校

### 【中国・四国・九州エリア】

- ・広島工業大学専門学校
- ・広島コンピュータ専門学校
- ・専門学校九州ビジュアルアーツ
- ・学校法人原田学園 鹿児島キャリアデザイン専門学校
- ・Oita Sound Creator 協会

## MIDI 検定試験結果の推移（国内）

|            |         | 平成 21 年度                                 | 平成 22 年度                                 | 平成 23 年度                                 | 平成 24 年度                    | 平成 25 年度                    | 平成 26 年度                    | 平成 27 年度                    | 累計     |
|------------|---------|------------------------------------------|------------------------------------------|------------------------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|--------|
| 3 級        | 実施日     | 第 12 回<br>2009<br>12/6                   | 第 13 回<br>2010<br>12/5                   | 第 14 回<br>2011<br>12/4                   | 第 15 回<br>2012<br>12/2      | 第 16 回<br>2013<br>12/1      | 第 17 回<br>2014<br>12/7      | 第 18 回<br>2015<br>12/6      |        |
|            | 受験者数    | 797                                      | 760                                      | 575                                      | 590                         | 514                         | 526                         | 493                         | 24413  |
|            | (内学校)   | 439                                      | 385                                      | 256                                      | 312                         | 298                         | 326                         | 301                         | 12290  |
|            | 合格者数    | 504                                      | 465                                      | 370                                      | 339                         | 261                         | 271                         | 308                         | 16599  |
|            | 合格率     | 63.24%                                   | 61.18%                                   | 64.35%                                   | 57.46%                      | 50.78%                      | 51.52%                      | 62.47%                      | 67.99% |
| 2 級<br>1 次 | 実施日     | 第 11 回<br>2009<br>12/6                   | 第 12 回<br>2010<br>12/5                   | 第 13 回<br>2011<br>12/4                   | 第 14 回<br>2012<br>12/2      | 第 15 回<br>2013<br>12/1      | 第 16 回<br>2014<br>12/7      | 第 17 回<br>2015<br>12/6      |        |
|            | 受験者数    | 172                                      | 150                                      | 161                                      | 134                         | 124                         | 117                         | 143                         | 5675   |
|            | 合格者数    | 87                                       | 79                                       | 109                                      | 84                          | 30                          | 73                          | 91                          | 2786   |
|            | 合格率     | 50.58%                                   | 52.67%                                   | 67.70%                                   | 62.69%                      | 24.19%                      | 62.39%                      | 63.64%                      | 49.09% |
|            | 実施日     | 第 11 回<br>2010<br>2/20 ~ 21<br>2/27 ~ 28 | 第 12 回<br>2011<br>2/19 ~ 20<br>2/26 ~ 27 | 第 13 回<br>2012<br>2/18 ~ 19<br>2/25 ~ 26 | 第 14 回<br>2013<br>2/16 ~ 17 | 第 15 回<br>2014<br>2/22 ~ 24 | 第 16 回<br>2015<br>2/21 ~ 23 | 第 17 回<br>2016<br>2/20 ~ 22 |        |
| 2 級<br>2 次 | 受験者数    | 99                                       | 76                                       | 88                                       | 74                          | 45                          | 78                          | 92                          | 3342   |
|            | 合格者数    | 77                                       | 48                                       | 57                                       | 41                          | 21                          | 33                          | 62                          | 1240   |
|            | 合格率     | 77.78%                                   | 63.16%                                   | 64.77%                                   | 55.41%                      | 46.67%                      | 42.31%                      | 67.39%                      | 37.10% |
|            | 実施日     | 第 1 回<br>2010<br>1/15 ~ 25               | 第 2 回<br>2011<br>1/14 ~ 24               | 第 3 回<br>2012<br>1/20 ~ 30               | 第 4 回<br>2012<br>8/10 ~ 20  | 第 5 回<br>2013<br>8/9 ~ 19   | 第 6 回<br>2014<br>8/8 ~ 18   | 第 7 回<br>2015<br>8/7 ~ 17   |        |
|            | 受験者数    | 153                                      | 76                                       | 46                                       | 45                          | 43                          | 27                          | 34                          | 424    |
| 1 級        | 合格者数    | 43                                       | 17                                       | 19                                       | 11                          | 9                           | 14                          | 10                          | 123    |
|            | 合格率     | 28.10%                                   | 22.37%                                   | 41.30%                                   | 24.44%                      | 20.93%                      | 51.85%                      | 29.41%                      | 29.01% |
|            | 国内受験者合計 | 1221                                     | 1062                                     | 870                                      | 843                         | 726                         | 748                         | 762                         | 33854  |

## 中国 MIDI 検定 3 級試験の推移

| 級   | 内 容  | 平成 21 年度                 | 平成 22 年度                 | 平成 23 年度                    | 平成 24 年度               | 平成 25 年度                       | 平成 26 年度                | 平成 27 年度            | 累計     |
|-----|------|--------------------------|--------------------------|-----------------------------|------------------------|--------------------------------|-------------------------|---------------------|--------|
| 3 級 | 実施日  | 第 6 回<br>2009<br>12/6    | 第 7 回<br>2010<br>12/5    | 第 8 回<br>2011<br>12/4       | 第 9 回<br>2012<br>12/16 | 第 10 回<br>2013<br>12/1         | 第 11 回<br>2014<br>12/14 | 第 12 回<br>2015<br>— |        |
|     | 試験会場 | 北京 天津 瀋陽 無錫 青島 (全国 7 会場) | 北京 上海 南京 杭州 広西 (全国 5 会場) | 北京 上海 南京 杭州 瀋陽 青島 (全国 6 会場) | 上海 南京 (全国 2 会場)        | 北京 上海 瀋陽 南京 杭州 成都 南寧 (全国 7 会場) | 南京 杭州 (全国 2 会場)         | 今年度は中止              |        |
|     | 受験者数 | 103                      | 177                      | 242                         | 80                     | 243                            | 65                      |                     | 1665   |
|     | 合格者数 | 89                       | 103                      | 229                         | 70                     | 240                            | 65                      |                     | 1452   |
|     | 合格率  | 86.41%                   | 58.19%                   | 94.63%                      | 87.50%                 | 98.77%                         | 100.00%                 |                     | 87.21% |

# TPP協定に伴う著作権法改正検討の現状について

著作権・ソフト委員会音楽配信部会長 堀江 康明

本年2月29日開催の文化審議会著作権分科会(第43回)において、「環太平洋パートナーシップ(TPP)協定に伴う制度整備の在り方に関する報告書」(以下、「本報告書」)が承認されました。著作権・ソフト委員会では、2015年12月の定例会の際に、著作権分科会傘下の法制・基本問題小委員会における当時の検討状況のレビューを行いました。本稿では、法制・基本問題小委員会での議論も踏まえつつ、本報告書の内容について各項目を掘り下げて行きます。なお、資料の詳細については、文化庁HP掲載の「文化審議会著作権分科会(第43回)」の配布資料3-1および3-2をご参照ください。

第一に、本報告書が反映される形で改正される著作権法の施行期日ですが、「TPP協定の発効とあわせて実施することが適当」と明記されています。TPP協定は、発行に全加盟国(本稿執筆時点で12か国)の同意が必要とされています。また、本年のアメリカ大統領選挙では、現政権の政策であるTPP協定の継続が一つのポイントとなっています。加盟国において何らかの事情が発生し、TPP協定が発行しない場合には、改正著作権法は施行されないこととなります。

第二に、世間的にも関心の高い「著作権等侵害罪の一部非親告罪化」についてです。現行著作権法は、第123条第1項で親告罪原則を定めています。しかし、加盟国間の貿易促進を図るTPP協定においては、著作物の海賊版対策が喫緊の課題とされており、その対策の一つとして盛り込まれたのが、非親告罪化です。この項目に対しては、海賊版対策への有効性は認めつつも、パロディや二次創作に萎縮効果をもたらす可能性が高く、「創作は模倣から始まる」という創造サイクルが阻害されることを懸念して、反対の声が上がっていました。加えて、小委員会での関係者ヒアリングにおいても、非親告罪制度は、米国の著作権登録制度やフェアユース規定が前提となっており、制度の違う日本の著作権法制とはなじまないという指摘も出ました。この点を議論した結果、「海賊行為のように正規品市場と競合する罪質が重い行為態様について、非親告罪化することが適当」という結論となりました。すなわち、①侵害者が利益を得る目的又は権利者の利益を害する目的で、②有償で提供・提示されている著作物等に改変を加えずに「原作のまま」利用する(複製権・譲渡権・公衆送信権)侵害行為をし、③権利者の得ることが見込まれる利益が不当に害されることとなる場合に、非親告罪として検察官が公訴を提起できるという結論となりました。このため、パロディや二次創作は、「原作のまま」利用する行為ではないので、非親告罪による公訴提起に対象外となりました。また、利益を不当に害するかどうかを探索する段階で権利者の意思が反映されるため、権利者が公訴提起を欲しない利用については、非親告罪とされることは無くなる見込みとなりました。

第三に、「損害賠償に関する規定の見直し」についてです。著作権侵害事案においては、損害額の立証が困難だったり、立証できても賠償額が訴訟費用に比して過小だったりして、被侵害者が泣き寝入りせざるを得ないことが問題とされていました。この点について、TPP協定は、「法定の損害賠償もしくは追加的損害賠償の導入」による救済を定めています。すなわち、損害を補償するために十分な額を定め、または将来の侵害を抑止することを法律で定めることを求めています。しかし、日本の著作権法や民法は、発生した損害を補填し、不法な行為がなければあったはずの状態を回復させる、すなわちマイ

ナスをゼロに戻す填補賠償を原則としています。この原則とTPP協定の内容が、法体系において矛盾することになるため、時間をかけて議論と検討が行われました。その結果、本報告書では、現行法第114条第3項の規定は、TPP協定の内容を既に「担保しているとする考え方も必ずしも排除されない」としつつ、「我が国の法体系の枠内で可能な範囲において何らかの形で、額を法定する仕組みを更に設けることが適当」と併記されました。後者の場合の基準は、「著作権等管理事業者の使用料規程より算出した額を損害額として賠償を請求できるようすることが適当」と明記されましたが、著作権等管理事業者の使用料規定は需要と供給のバランスで決まらず、高くなる方向にあるため、著作権等管理事業法の見直しとセットで検討すべきという意見が委員から出ました。

第四に、著作物等の保護期間の延長についてです。現行法では、著作権の保護期間は、創作者死亡時もしくは作品公表時から50年間を原則としています。TPP協定では、これを70年に延長することを求めています。本報告書では、「国際調和を重視し、著作権等の保護期間を死後70年まで等に延長することが適当」と結論付けています。委員および関係者からは、戦時加算によって、実質80年になる懸念が指摘されましたが、TPP協定とサンフランシスコ平和条約を重複して締結している各国に対して、外務省が交渉の努力をすることが伝えられました。なお、70年に延長されることに関連して、現行70年となっている映画の著作物の保護期間を95年に延長することも提案されましたが、今後の動向を見て検討することとなりました。

最後に、残りの2項目、「配信音源の二次使用に対する使用請求権の付与」と「アクセスコントロールの回避等に関する措置」です。前者については、従来は、商業用レコードに限定されていた実演家・レコード製作者の放送および有線放送の二次使用料請求権ですが、配信専用音源を使用する機会が増えてきたために、対象を商業用レコードだけでなく配信音源まで拡大します。後者については、過去にも何度か議論されてきましたが、継続検討とされていました。今回のTPP協定において、この点への民事・刑事上の措置を定めることが求められ、本報告書では「アクセスコントロールにより確保される著作権者等の利益は基本的に著作権法による保護の対象とすべきものと評価し、当該手段の回避及び回避行為の流通等に一定の救済を求めることが適当」と結論付けられました。

以上に述べましたように、改正著作権法が施行されるかどうかはまだ流動的な部分が残っていますが、改正が予定される項目はいずれも、現行著作権法の原則から大きく変わるものになります。著作権・ソフト委員会では、引き続き動向を注目して行きます。

## TPP 交渉参加国





東日本大震災、並びに福島第一原子力発電所事故により被災された皆様に心からお見舞いを申し上げますと共に平成28年熊本県及び大分県にて発生しました地震により被災された方々に心からお見舞い申し上げます。また、被災地等におきまして、救援・復興支援等の活動に尽力されている方々に深く敬意を表し、併せて皆様の安全と1日も早い復興をお祈り申し上げます。

## 会員名簿

50音順 2016年5月6日 現在

### あ

- Apple Japan 合同会社

### い

- 株式会社インターネット

### え

- 株式会社エクシング

### お

- OTTAVA 株式会社

### か

- カシオ計算機株式会社
- 株式会社河合楽器製作所

### く

- クリプトン・フューチャー・メディア株式会社
- クリムゾンテクノロジー株式会社

### こ

- 株式会社コルグ

### し

- 株式会社シーミュージック
- 島村楽器株式会社
- 学校法人尚美学園
- 株式会社シンクパワー

### す

- 株式会社ズーム
- 株式会社鈴木楽器製作所
- 株式会社スリック

### た

- 株式会社第一興商
- 株式会社タムラ製作所

### て

- ティアック株式会社

### と

- 株式会社ドワンゴ

### に

- 学校法人片柳学園 日本工学院専門学校・  
日本工学院八王子専門学校
- 一般社団法人  
日本シンセサイザープログラマー協会

### は

- Pioneer DJ 株式会社

### ふ

- 株式会社フェイス
- 株式会社フットレック

### や

- ヤマハ株式会社
- 一般財団法人ヤマハ音楽振興会
- 株式会社ヤマハミュージックメディア

### ら

- 株式会社ラグナヒルズ

### ろ

- ローランド株式会社
- 〈正会員会社 30 社〉

### \* 賛助会員

- 中音公司 (中華人民共和国)
- 株式会社博秀工芸
- 株式会社ミュージックトレード社
- 株式会社リットーミュージック
- 〈賛助会員会社 4 社〉

### 一般社団法人音楽電子事業協会

## 第5回通常総会と懇親会開催のお知らせ

#### 通常総会

日時:平成28年5月12日(木) 16:30~18:00  
場所:ホテルメトロポリタンエドモント3階「千鳥」

#### 懇親会

日時:平成28年5月12日(木) 18:00~20:00  
場所:ホテルメトロポリタンエドモント3階「春琴」

多くの会員の皆様のご参加を  
お待ちしております

- ◇平成27年度事業報告・  
収支決算報告
- ◇役員選任の件
- ◇平成28年度 事業計画(案)  
収支予算(案)



AMEI NEWS Vol.59 / 2016.5.11

一般社団法人音楽電子事業協会 機関誌

発行:一般社団法人音楽電子事業協会 事務局

〒101-0061 東京都千代田区三崎町 2-16-9 イトービル 4F

TEL.03-5226-8550 FAX.03-5226-8549

発行人:岩崎修三

編集人:石黒士郎(広報委員会)

編集協力:株式会社 博秀工芸

ホームページアドレス: <http://www.amei.or.jp/>

